

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮)京都四条河原町ホテル計画 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	重み係数	住居・宿泊部分 評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境					0.40		-	3.5
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音				3.0	0.40	3.2	0.40	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境				3.3	0.35	3.2	1.00	3.2
2.1 室温制御				3.6	0.50	3.4	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能				4.0	0.25	4.0	0.43	
3 ゾーン別制御性				4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.3	0.25	3.3	1.00	3.3
3.1 屋光利用				4.2	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率				5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 屋光制御				3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				4.4	0.25	4.2	1.00	4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.7
1 機能性				2.5	0.40	2.8	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	0.50	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			ゾーン毎の換気計画、防振吊	3.2	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備			節水及び雨水利用	4.0	0.20	-	-	
	3	電気設備				4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
						2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.0	0.30	2.4	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり						-	-	1.8	0.50	
	1	階高のゆとり				3.0	-	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	-	3.0	0.40	
3.2	荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性						3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加算) D(独自基準)	沿道美観地区及び旧市街地型美観地区の基準に適合		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮						3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)	西側大通りのメインアプローチに軒下空間を形成		4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.1
LR1 エネルギー										2.9
						-	0.40	-	-	
1 建物外皮の熱負荷抑制				熱貫流率の低減		3.5	0.20	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加算)	[BEI][BEIm] = 0.86		2.7	0.50	-	-	2.7
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価					-	-	-	-	
	4.1	モニタリング				3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										3.5
						-	0.30	-	-	
1 水資源保護						3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水				節水器具の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	雨水による水景設備	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						3.6	0.60	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用				既存建物の基礎と地下外壁を利用	5.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	GL工法を採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.6	0.20	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用				F4スター以上の仕上材及び接着剤等を利用する	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤				-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										2.9
						-	0.30	-	-	
1 地球温暖化への配慮				熱貫流率の低減		3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮						2.8	0.33	-	-	2.8
2.1	大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
	1	騒音				3.0	0.33	-	-	
	2	振動				3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭				3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制					1.6	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)	外壁には反射率の低い建材を採用	3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる